

## 令和7年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

広中央中学校区 校番4 学校名 呉市立広小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策 (こう改善します)
★★★  知 確かな学力を育成する。	基礎・基本の定着  思考力・判断力・表現力の育成	基礎・基本の定着	<p>○国語科では5.8%、算数科では4%で今年度は国語科で学期末テストの通過率が40%未満の児童がいることがわかり、学力の個人差が見られた。特に学期末テストの通過率が40%未満の児童の割合で国語科が多いかった。読み取りや漢字に課題が多い児童が各クラス数名いることが分かった。</p> <p>○学習規律という点で、ペルスタートができる児童の割合が昨年度は目標値を上回ることができなかった。今年度は、92%と達成することができた。朝会で呼びかけたり、教員側の意識が高めたりした成果が出てきていると考える。</p>	<p>○普段の授業から、視覚教材や具体物を使いながら、分かりやすい授業を展開できるように努めていく。また、スマイルタイム等で基礎基本の定着を継続して図っていく。また、タブレット学習も継続して取り組む。</p> <p>○朝のスキルタイム(毎週金曜日)を使って、各学年にあった計算力を付ける必要があるため繰り返し同じ問題を解くなどの指導をしたり、スキルタイム強化週間を設定し全校で取り組み、課題を分析し課題に向けて取り組みを考える。</p> <p>○今後もペルスタートの意識をもたせ続けるために、教師側の働きかけを継続していく。</p>
		思考力・判断力・表現力の育成	<p>○「導入の工夫」は、ほとんどの教職員が取り組むことができた。実物を活用したり、日常生活との関連性があるものを提示したりすることで、児童の意欲・関心を引き出すことができている実態がみられる。しかし、「わがともに」の視点で振り返りを書かせていない教職員が約3割いることが判明した。</p> <p>○全国学力状況調査の結果は、目標値である+3%を超えた児童の割合が国語は70%、算数は57%、理科は59%であった。分析の結果、国語では、条件を整理しながら根拠を明確にして自分の考えを形成することに課題があった。算数では、图形に課題がみられた。理科では、条件制御において課題がみられた。</p>	<p>○教職研修等で、再度「ひろっ子学びのスタンダード」を再確認するとともに、各自が行っていることを共有する場を増やす。</p> <p>○分析結果をもとに各学年の課題と改善策を考え、2学期からの授業づくりに生かしていく。また、研究授業を通して、UD化の授業づくりの本質を教職員全体会考していく。</p>
★★  徳 豊かな心を育成する。	規範意識の向上  貫 自尊感情・自己肯定感の向上	規範意識の向上	<p>○朝、自分から相手に伝わるあいさつができる児童の割合は、教職員76%、児童88%が肯定的に答えた。昨年度の下半期に比べ、教職員・児童ともに評価は少しずつ高くなつたが、目標の数値には届かなかつた。生活目標等に設定されている期間は取り組めていても、その期間が終わると減ってしまう傾向がある。また、教員のあいさつに対して返すことができない児童もまだいる。</p> <p>○全体的に学校や地域で落ち着いて過ごすことができている。昨年度トラブルの多かった休憩時間の場所取り問題の対策として、グラウンドの使い方の決まりを導入して軌道に乗りつつある。また、雨の日に教室で遊ぶグッズを揃えることで、校舎内で落ち着いた過ごしができるよう取りんでいる。</p>	<p>○委員会活動を中心として段階的な生活指導をしている。児童ができたと感じられる取組を、引き続き委員会の児童主体で考えていく。その際、教職員の評価を児童にフィードバックすることで、児童と教職員が一緒に児童の成長を感じられるようにしていく。</p> <p>○未然防止教育や早期発見解決の取組を進める。特に、未然防止教育の視点を大切にし、非行防止や防犯に関する指導を外部講師と連携して行ったり、他校との連携を図って指導したりする。</p>
		貫 自尊感情・自己肯定感の向上	<p>○7月末時点で、昨年度は欠席数30日以上の長期欠席者が9名、今年度は8名(新規児童1名)であった。継続している児童に対して個に応じた支援を続けるとともに、新規の児童を増やさない取組を進める必要がある。</p> <p>○自分にはよいところがあると感じている児童が83%で、目標の数値は達成したものので、昨年度の下半期と比べて少し低くなつた。アンケート項目自体に肯定的に答えにくいといった課題があると考えられる。児童が自分のよさを具体的に認知できるよう取り組む必要がある。</p>	<p>○不登校(傾向)児童についての情報共有を全職員で行うことで、多くの教職員が児童に関わり、一人ひとりに応じた効果的な関わり方ができる機会を増やす。</p> <p>○引き続き「ポジティブ行動支援」の理論を軸に、委員会活動について見直し、児童が自己有用を感じられる活動を保障できるようにする。</p> <p>○児童が自分のよさに気付けるよう、アンケート項目を具体化していく。</p>
★  体 健やかな体を育成する。	健康の保持増進と体力・運動能力の向上  「自分の命は自分で守る」力の育成	健康の保持増進と体力・運動能力の向上	<p>○「早寝・早起き・朝ごはん・運動」の取組では、「朝ごはんを食べた児童」の割合は97%で目標を達成することができた。日頃から朝ごはんを食べる習慣が定着していると考える。</p> <p>○50m走、上体起こし、20mシャトルランの継続的な取組を行い、今後分析していく。</p>	<p>○朝食を食べていない理由としては、起床時間が遅い、食欲がない等が考えられるため、生活習慣を整えることの大切さや生活習慣を整える際の工夫、簡単に食べられる朝食の紹介等を保健委員会や給食委員会、体育委員会と連携し啓発していく。</p> <p>○いきいきチャレンジ週間にちは、毎日めあてをもって継続して取り組めるように、朝の会や給食時間に声掛けを徹底する。</p> <p>○「くれチャレンジマッチ・スタジアム」の走種目を計画的に取り組んだり、陸上教室や体育朝会等で様々な運動に親しんだりさせる。</p>
		「自分の命は自分で守る」力の育成	○災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童は95.8%で、目標値を4.2%下回った。全体として「自分の命は自分で守る」意識を高めることができた。残りの児童への対応が課題である。	○避難訓練等の行事ごとに「土砂災害対応携帯マニュアル」を繰り返し確認させたり、児童が作成した防災標語を掲示して取組の見える化を図ったりする。理解をしていない残りの児童には、必ず個別の指導を行い、理解させる。
業務改善  健康でやりがいのある職場をつくる。	児童と向き合う時間の確保  長時間勤務の削減	児童と向き合う時間の確保	<p>○アンケートによる意識調査から、「児童と向き合う時間が確保されている」と感じている教職員の割合は、88%であった。目標値である90%には届かなかつたが、休憩時間に児童と遊ぶ教職員の姿も見られた。</p> <p>○ICTで授業準備や評価での活用、アンケート作成など、有効活用できていると感じている教職員の割合は100%であった。</p>	<p>○学年や分掌で優先順位を考え、教材準備やワークシートの印刷はSSSIに依頼したり、宿題でキュビナを活用したりして、直接児童と向き合える時間の確保に努めていく。</p> <p>○ICT(ロイロノート)を授業に積極的に取り入れ、学年間で共有しながら活用できている。次年度以降も活用できるように、資料箱に保存していく。また、キュビナのワークブックで児童のつまずきを把握して、今後の指導に生かしていくようにする。</p>
		長時間勤務の削減	○4月から9月までの時間外勤務の平均が45時間以内の教員の割合は、62%であった。定時退校日(水曜日)や退校時刻を示しているが、日々の業務や生徒指導に係る時間が多いのが課題である。また、時間外勤務が多い教職員に固定化が見られる。	○定時退校日(水曜日)や退校時刻を意識しながら、学年や分掌で業務の見通しをもち、分担して取り組んでいくようにする。